

## とある住宅改修工事の話

高島町の、とある一般住宅改修工事の話です。

工期は迫ってはいますが、作業も順調に進み、追い込み時期に掛かってきました。大工、塗装、内装、電気、設備と日々完成に近づいてきました。その中で大工の親方の動きが、どうも鈍いことに気づき、微妙な工程のズレが出始まりましたので、打ち合わせした所、腰から足に痛みが走り、いつものように体が動かないとのこと。

このままでは、納期、引き渡しに間に合わない状況でした。「大工・内装作業の隣で、塗装の仕事は成り立たない。さて、どうしたものか」。今までの建築業界では、残業・夜業は一般的ですが、どうしても、ネックになるのが「働き方改革」で、残業や休日出勤は強要できないし、賃金の面でも問題になる。

「腰を痛めたのは俺のせいだから仕方がない。時間をかけて仕事をさせてもらっていいかな」と相談された。私は、どのように進んでも、「無理かな」とは思っていました。快く了承した。見ているだけでも痛々しい中、作業が始まりましたが、なぜか、工程通り進みました。お客様からお聞きしたら、「社員、職人が来る前に親方一人で、曜日関係なく朝5時頃から夜8時頃まで作業していた」とのこと。

確かに経営者であれば「働き方改革」摘要外で済むのではあるが、時間外作業ということは、騒音や戸締り等、お客様にもご迷惑をかける。職人にとって、なるべく避けたい所である。お客様にお聞きしたら「畑、田んぼ作業を朝4時ごろからやっているから、曜日や時間は大丈夫だが、大工様の熱意に負けて、夜8時までを了解した」ということでした。そんな中でもお客様からの要望や、監督さんや設計さんに言われたこと以外に、作業範囲外の、気になる所を直していたとのことでした。

改修工事は予定外の作業が必ず発生する。私は「体、大変なのに、工期内によく終わらせましたね。指定箇所以外も大変だったでしょう？」とお聞きした。「工期内に終わらせるのは当然のこと。お客様が思い出と共に過ごしてきた建物を、より永く、より安全に生活して頂くのが大工の役目だから、気づいた所は、手を付けているんだよ」と言われた。

苦しい中、職人の心意気と、お客様への優しい思いやりを忘れない親方に感動しました。

追伸 もちろん、大工の親方が、無料で直した所は、ペンキ屋が無料で仕上げました。